編纂所だより

大阪市史編纂所（発行）
平成２０年３月発行
第30号
大阪市史料調査会（編集）
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2
大阪市立中央図書館内　TEL 06-6539-3333

◎大坂城の請負業者

江戸時代、大坂は幕府の直接支配を受け、大坂城には大坂城代以下の役人が常駐していました。大坂城は、西国大名の謀反および農民の一揆、外国からの侵入に備えた、西国の軍事拠点となっていました。軍事指揮権を持つ城代の下には、２名の定番、２組の大番、４名の加番がいて、協力して大坂城を守衛していました。

加番とは「加勢」（手助けすること）という意味を持つ役職ですが、江戸時代前期より常時設置されていました。４名はそれぞれ、城内の山里・青屋口・中小屋・雁木坂と呼ばれる場所の小屋に滞在し、守衛と修復を行い、武器を管理していました。加番には譜代大名が任命され、毎年８月に大坂城に入城し、前任者と交代することとなっていました。

城代以下の役人は、それぞれ持ち場が決まっていました【図】。城代は大手門、定番は玉造門・京橋門、大番は本丸南の桜門の出入りを管理するほか、緊急事態や火事の時はそれぞれの持ち場の守衛を行いました。また、それぞれの持ち場で壊れた部分があると修理も行いました。

加番には鉄砲役・破損役・米役の「三役」と呼ばれる組織があり、４加番からそれぞれ２名の家臣を出して組織されていました。鉄砲役は多門（門の上にある倉庫）で管理されている鉄砲や鏃を磨くことを仕事とし、破損役は持ち場内の壊れた箇所を修復することを仕事としていました。また米役は、加番の給与のうち米で支給された分を管理し、売却して金に替えることを

仕事としていました。こうした三役の仕事を支えた町人の中に「三藁屋」と呼ばれる人たちがいました。

藁屋忠助は上本町一丁目に居住し、幕末には上本町二丁目の年寄も務めていました。加番が本丸櫓・多門などを掃除する時には人足を手配したり、加番で働く奉公人を調達したりしました。また鉄砲役と関係が深く、鉄砲を磨くための紙の納入も請け負っていました。藁屋八兵衛と藁屋庄次郎は、同じく掃除の人足を調達したり、城内の修復場所の夜廻りを行ったり、堀にある捨てもの・堀落ち・浮き物などの処理をしたりしました。江戸後期には、庄次郎と忠助は米中次も務めました。米中次とは、加番の給与の米を町人による入札で換金する際に、その入札に関わる仕事をいいます。

加番の三役と三藁屋は関係が深く、城外にある藁屋忠助の家が鉄砲役の会合場所にもなっていました。しかし、監視が行き届かない城外での会合は癒着の温床ともなり、しばしば取締が行われました。（吉田洋子）

◎幕末の天保山にロシア船がやってきた！

嘉永７年（１８５４）９月１８日、天保山沖に１艘の巨大な黒船が現れました。ロシア使節プチャーチンを乗せたディアナ号です。プチャーチンは、前年から開国を求めて長崎や箱館に入港していましたが、江戸幕府が国書の受理を拒む中で、大坂にも交渉のためにやってきたのです。これに対して、大坂城代・定番・町奉行をはじめとする在坂の幕府役人は、天保山周辺に出陣し、町奉行所の与力たちがロシア使節との交渉にあたりました。

諸藩の蔵屋敷からも軍勢が出され、天保山周辺を固めました。およそ１万４～５千人もの軍勢が出陣したといわれています。この中には諸藩の藩士の他に、武器を運んだり、下働きをする多くの足軽や人足が含まれていました。彼らは普段、大坂城内などで荷物の運搬などをしていましたが、この時ばかりは最前線に駆り出されることになったのです。このように多くの人足が海岸の防備に動員されると、人足賃が高騰し、城内で働く人足を斡旋していた藁屋忠助は、普段の倍の賃銀がないと人足達が納得しないと嘆いています。また、ロシア側との交渉が長引く中で、諸藩の役人が出陣したために、米

○大阪の歴史第７０号　発売中（１冊700円＋送料210円）

【特集：中世大阪の水上交通】
大村　拓生「中世渡辺津の展開と大阪湾」
生駒　孝臣「南北朝・室町期の”渡辺”について
―『渡辺散在下地早田内検帳』の紹介を通して―
【論文】
野高　宏之「『天下の台所』と『大大阪』」
【史料紹介】
馬部隆弘・蓮井岳史「一七世紀中葉の代官手代宛書状群
―幕領代官平野藤次郎と元締手代片岡宗信のやりとり―」
その他

取り扱い書店　旭屋書店（梅田本店・天王寺ＭＩＯ店）、ジュンク堂書店（大阪本店・難波店）、ユーゴー書店（阿倍野店）、四天王寺書林、大阪歴史博物館（なお、書店では消費税が加算されます）

通信販売も受けつけています。郵便局そなえつけの、青色の郵便振替用紙でご送金ください。
口座番号　００９３０－９－８２２４１
加入者名　大阪市史料調査会
備考欄にご購入希望の号数と冊数をご記入ください。そのほか、くわしいことは、お問い合わせください。
また、大阪市史編纂所で直接販売もしています。
大阪市西区北堀江4-3-2　大阪市立中央図書館３階
（地下鉄千日前線・鶴見緑地線西長堀駅下車）
電話06-6539-3333・FAX06-6539-3330

の販売などの蔵屋敷の業務が滞ってしまいました。そのため大坂町奉行は、目立たないようにこっそり軍勢を減らしてもよいと諸藩の役人に達しています。

一方、大坂市中や周辺農村の人々も、ディアナ号の来航に大変驚き、強い興味を持ちました。たくさん出された瓦版などからその一端がうかがえます。大坂周辺の村々を支配していた幕府の代官所でも、異国船見物に行ってはいけないというお触を出しています。しかし、見物に出かける者が後を絶たず、小船で近づいたりした人もいたようです。代官所は、「町奉行所に捕らえられた者もいるので、決して見物に行ってはいけない」と、再度取り締まりのお触を出しています。

ディアナ号は１０月３日大坂を離れますが、この事件は幕府・朝廷はもとより、大坂の人々に強い衝撃を与えました。これ以降、大坂でも海岸の防備の必要性が認識され、台場（砲台）が建設されたり、諸大名に一層厳重な警備が命じられます。江戸時代には西国有事に備えて配置されていた大坂城の軍事態勢も、大阪湾を含めた防備へと大きく性格をかえていきます。ディアナ号の来航は、大坂にも本格的な幕末の波が押し寄せてきたことを示す事件だったといえます。　（上田長生）

江戸幕府と大坂・大坂城

『新修大阪市史　史料編』第６巻（第５回配本）「近世Ⅰ政治１」を刊行

今回の第６巻は、本文編第３巻・第４巻に対応するもので、慶長５年（１６００）～慶応４年（１８６８）の大坂城と大坂の町についての史料、約５５０項目を収載しています。

江戸時代の大坂は、商工業の町という印象が強いですが、江戸幕府の政治的・軍事的な拠点としても、重要な地位を占めていました。本書では、大坂城を預かった大坂城代をはじめとする幕府の役人たちの組織や役割、また大坂の町や周辺の村々のひとびとがそれにどのようにかかわっていたかについて、取り上げています。

朝鮮通信使や幕末のロシア軍艦来航など、国際関係において大坂が果たしていた役割についても触れています。

主な内容

第１章　大坂の直轄化と諸役の設置
第２章　諸役の職務
第３章　大坂城および諸蔵の維持経営
第４章　朝鮮通信使・琉球使節と大坂
第５章　在坂役人を支える人々
第６章　幕末期の大坂

Ａ５判、９５０ページ。大阪市立中央図書館ほか市内２３館の地域図書館において閲覧（えつらん）することができます。

また本体価格５，５００円（別途送料実費）で、通信販売も行っています。ご希望の方は、大阪市史料調査会（TEL：06-6539-3333）にお問い合わせください。市内の主要書店【旭屋書店（梅田本店）、ジュンク堂書店（大阪本店、難波店）、ユーゴー書店（阿倍野店）など】でも、販売を取り扱っています（別途消費税が必要です）。

絵はがきでみる昔の大阪（８）

堺筋（１９２０年ごろ）

今橋と堺筋の交差点あたりから、南のほうを向いて撮影したものです。写真で奥に写っているいちばん背の高い建物が三越呉服店（百貨店）で、大正９年（１９２０）に完成しています。鉄筋コンクリート７階建て。当時の建築高さ制限いっぱいの、１００尺（３０．３メートル）の高層建築でした。それまで百貨店といえば２、３階建てくらいであり、今日われわれが百貨店といわれて思いうかべるようなビル形式の店舗は、大阪ではこの三越が最初でした。

三越の手前は三井銀行・三井物産の大阪支店で、明治３４年（１９０１）の建築。堺筋には市電が走っていますが、自動車らしきものはみあたらず、歩行者のほかは人力車と、自転車がみえるていどです。市電の架線（かせん）が、道路中央の十字型の電柱に取りつけられた、「中央柱式」という方式になっていますが、大正１２年の『大阪市営電気軌道沿革誌』には、架線は「漸次（ぜんじ）側柱式に統一せられむとす」とあるので、写真は大正９年からそう下らない時期のものであると判断できます。

堺筋は江戸時代から多くの商店が並び、繁栄していましたが、市電の第３期計画の一環として明治４５年（１９１２）に拡幅され、このような姿になりました。当時は船場で唯一の、南北の電車通りであり、絵葉書にもしばしば取り上げられました。しかしやがてその地位は、御堂筋（昭和１２年完成）にとってかわられることになります。

大正ごろ、大阪で百貨店の立地場所は３種類ありました。ひとつは私鉄のターミナル、もうひとつは心斎橋筋ぞいです。あとひとつが堺筋で、三越のほかにも高島屋・白木屋・松坂屋がありました。しかしこれもしだいに減少。ずっと残っていた写真の三越も、平成７年（１９９５）の阪神・淡路大震災で大破し、取りこわされてしまいました。今日唯一なごりをとどめるのが、結婚式場等として使われている日本橋の高島屋東別館で、もとは昭和９年（１９３４）に松坂屋大阪支店として建てられたものです。

（藤田　実）

▼大阪市史編纂所では、所の仕事の紹介や、刊行物の案内などのため、ホームページを開設しています。アドレスは下記のとおりです。または主だった検索エンジンで、「大阪市史編纂所（おおさかししへんさんしょ）」でおさがしください。

http://www.oml.city.osaka.jp/hensansho/